

ふれあいと語らいの同窓会



# 東実同窓会報 NO.4

発行 号144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL.03-3732-4481 東京実業高校同窓会編集委員会

## 同窓会にご協力を



同窓会々長 渡邊和彦

同窓会々員の皆様、平成5年を迎え御喜び申し上げます。

昨年は井上前校長を黄泉の国へと送る悲しい日もございましたが、新しく上野現校長を迎え、秋には開校70周年の目出度い御祝いの行事がございました。

多くの御祝の皆様から理事長、校長の御挨拶がすばらしかったとの声が聞かれ、まことに心強い極みでございます。

そして本年3月には新卒業生の会員を迎えますますの発

展が期待できます。

母校同窓会も戦後の様々な世間の荒波にもまれ、苦しい社会生活を味わわれ、本日を迎えております。

近年は以前に卒業されました大先輩のかた達も多くお見えになる様になり、そして毎年母校に入学せんと幾千人の子弟が集まる様になりました。

これは会員皆様の社会に対する実績と思われま

す。今後も母校を愛し同窓会への御協力を御願ひし、御挨拶といたします。(株式会社オクトバック代表取締役社長)



平成4年度 同窓会定期総会於母校地下小ホール 平成4年6月28日

## 創立70周年を祝って

理事長 上野 雅子



東京実業高校は、昨年創立70周年を迎えました。前理事長上野幸一が健在で校長も兼務し、また兄弟校の東京高校の校長もしていた10年前に創立60周年を祝った事がつい昨日のように思い出されますが、それから早や10年という歳月が流れてしまいました。この10年に何と世の中は変わった事でしょう。東西ドイツの統合や共産国の崩壊は、20世紀最大の出来事となる事でしょう。また日本でも昭和から平成へと移り、東実においても前理事長の死去、前校長井上稔先生の死去と、本当にめまぐるしい程の出来事がありました。それ程10年という年月は早いよういて人間の生活に大きな変化をもたらすに充分な長さでもあるわけです。

それから10年後の創立70周年は、11月11日に新高輪プリンス飛天の間で多くの方々の御出席を仰ぎ、盛会に行われました。午前中は1年2年3年生の生徒の代表を体育館に集め、この学校の歴史、創立者上野清の人となりや彼の建学の精神などを改めて生徒達に話し、和共もま

た心新たにその精神を見つめ直しました。またこの25年間、隔年毎の交換留学を行っているポールダー市からは、代表としてポールダー地区教育庁の長官デーモン博士御夫妻と実際に交換留学の世話係となってお下さっているコックス氏におい出願、両国の若者たちの理解を深める交換留学の意義などをお話いただき、記念品として市の方からすばらしい木画と交友の言葉のきざまれているタテを丁度いしました。学校の方へおこしなされた折には是非皆様にも見ていただきたいと思っております。夕方からの祝賀会には、学校関係の方々、卒業生の方々など多くの方が御出席下さり、東実のマーチングバンドの演奏なども加わり、楽しい会になりました。

今世の中は、あまりにも欺満に満ち、若い人たちの手本になるような大人のいない不毛の時代で、何か心まで寒々としてしまいますが、この学校のモットーの一つでもあります「雑草のごとく強くあれ」という精神のもとに、この社会を支えているのは、誠実で縁の下の力持ちとして一生懸命働いているごくごく平凡な人たちであって、最高学府を出ていても善悪の区別のつかない一握りのエリートでは決っていないのだという自信と誇りを持って社会に出ていってもらえるような人間を育てていきたいと節に願う次第です。この先東実が80年90年と続いていき、皆様の暖かい御助力のもとに、多くのすばらしい卒業生を世に送り出していけるよう、教職員一同頑張っていきたいと思っております。



## 創立70周年の意味

学校長 上野 毅



昨年の同窓会報では同窓会長、井上稔前校長、理事長それぞれの方が本校創立70周年にまつわるお話を書いておりました。実際平成4年11月11日に、記念式典、記念祝賀会を盛大に催すことができました。創立70周年を祝うという意味は、次の10年に向けての新しい出発である、と自覚することだと思います。

私立学校は、建学の精神を念頭におき、実現すべき教育実践において前進します。井上稔前校長先生もこのことについて会報(No.3)に次のように執筆しております。「学んだ学問知識を実際に試み、更に足らざるを学ぶという勇気をもつ」と。つまり、生徒の固有の能力を伸長させることが、私立学校の前進・発展の一つと説いています。

社会に出ると、よくわかる事ですが、品質管理(工場製産品の質の向上の考え方)の手法に「プラン(計画)→ドウ(実行)→チェック(反省)→アクション(改善・実行)」で「プラン(計画・ねりなおし)」という「QCサークル」というのがあります。この手法とわが校で現在実践されている学習の進め方がよく似ています。つまり、「学ぶ→実習で試みる→理解できない箇所の点検反省→さらに学ぶ」ということです。「生徒の固有の能力の伸長」には、このような具体的な方法が必要なのです。また、我々教員も教育に対する真摯な態度が望まれます。自分の現在持っている学問知識が全てであり、生徒に対する教育観、指導は、十分に発揮されていると、自画自賛自己満足の陥穽に陥ってしまい、柔軟な姿勢を失ってしまうことがあります。それこそ、マンネリズムの浸透であり、発展を忘れた退歩の象徴だと思います。

大切なことは、生徒も教師も、自分にとられることなく、「勇気」をもって、試み、再び学ぶ、という精神ではないでしょうか。井上先生はわが校の原点ともいえる言葉を残しました。

平成6年度から、新教育課程が導入されます。その中に、課題研究があります。自分でテーマを決め、読書し調査し、教師との話し合いをもちながら、1年後になんらかの研究結果を発表する、というものです。一斉授業ではありませんから、自分から積極的に取り組まなければなりません。もちろん、現在の授業の形態であっても、

学習に対する個々の姿勢は大切なのです。だから、生徒の個性を重視し、教師と一体となつての学習の進め方、東京実業高校の授業形態にはもつとも必要な方法が「QCサークル」という手法ではないでしょうか。教師にとつても生徒にとつても、つまり、教える、教えられるという、それぞれの人間自身にとって大切な行為だと思います。

「70周年」は人間の変革、教育の方法の出発の時代にしたいと思います。

### 創立七十周年記念式典



「みちのくを距だてて江戸の空

あをぐ城南の学府弥栄たり」

### みちのくを距だてて

第17期卒 長谷川 勇



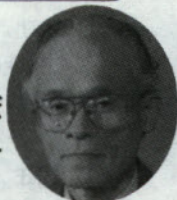
暫らくでした。昨12月9日同窓会名簿70周年誌を掌中にし、拝見して目から雫がおちるのを覚えました、東実を卒えてから50年の歳月が過ぎ、明くれば小生は歴々70歳になります。うたた寝の思いです只懐かしい顧客は人を待たず走馬灯の如し城南の蒲田・川崎・ヨコハマとお天とう様の下で居を移し、今は内地の北端南部藩の八戸市に爵の寓をします。当地は南部せんべい、鳥賊の水揚げ、風の漁港であり、雪は僅かだが寒く、スケートは氷が田圃等に張るので有名です。ひるがえって去る年の山中湖学寮のOBの一泊旅行は心に染みて忘れません、故上野校長先生、OBの事務局米田氏、同期の前会長村松氏、現会長の渡辺氏、常任幹事の井上実氏、女子部卒の方々、級友の誰彼との団欒はなんともはや良き宴に思っています。小生のごとき瘦馬でも東実とゆう田校を持ち青春の渦の環があり、それぞれの人生の中でよくともわるくとも情感の一種類を醸しだしているのかも知れません。故旧忘れ得べきと言いますが、名簿を手にする度に諸先輩、恩師、級友の物故を知ります。ご愁傷のことで、こればかりは避けては通れない生であり、ただ黙禱を捧げるのみです。



## 学校からのたより

### 東実この1年

#### —入学式・創立70周年祝賀会 文化祭・クラブ活動報告—



生徒部長 尾藤 勇

同窓会の皆様には日頃母校のために、いろいろと物心両面にわたりましてご協力いただいております。誠に感謝にたえません。平成4年度の学校内の動きをまとめてみました。

#### 平成4年度入学式

平成4(1992)年4月11日の入学式では、746名の新生が本校の門をくぐりました。この数字は本校の施設から申しまして、だいぶ多すぎる感みは否めませんが、学校側の入学者数のヨミに誤差があったのだと思います。

それにいたしましても、2,478名という多数の志願者が、この東京実業高校を受験したという事実は、やはり現役、同窓生、親師会、そして教職員の努力の賜物に他ならないのでありまして、とりわけ、同窓生の皆様のご活躍に負うところ絶大なものと存じます。

事実、新入生の中には、父、母、兄、姉、親戚が卒業生だという者が多数いたり、また、なんらかのつながりがあるという生徒も大勢います。

このように考えますとき、東京実業高等学校の揺るぎない70年の伝統と人の絆を思い、限りない未来への展望が開けてくる思いがいたします。従いまして、現在(平成4年12月末)では、2,065名(内機械科635名、電気科291名、商業科779名、普通科361名)という大規模校並みの生徒を教育しておりますが、学校といたしまして、いかにして適正人数を、維持していくか頭を悩ませている昨今です。詳細は平成4年11月発行の東実70年史 166ページ以降をご覧くださいと存じます。

#### 創立70周年記念式典—学校 記念祝賀会—新高輪プリンスホテル

この1年間で、何と申しましても特筆すべきことがらは、本校がめでたく創立70周年を迎えたことでしょう。

平成4年11月11日、創立70周年を記念して、本校体育館で記念式典が行われました。この日はクラスより代表

20名、全校で約800名の生徒がこの栄えある式典に参列、上野校長先生は70周年を迎えたことの意義について話されました。つづいて、親師会長の渡辺金也氏のお祝いのごことばがあって、つぎに、本校の姉妹校であります、アメリカ・コロラド州ボルダー市の教育長、ディーン・デーモン博士ご夫妻、日米交流委員会委員長、グリー・コックス氏の祝辞がありました。お二人とも、本校の長年にわたる国際交流事業が、いかに日米両国民の相互理解に貢献してきたか、そして、今後とも更にこの事業を発展させていかなければならないと力説されていました。



▲ 鏡開き、上野校長、理事長、アメリカからのお客様

またこの席で、本校創立70周年を記念して、ブラキユとボルダー市の写真を校長先生にプレゼントされ、現在は玄関ホールに飾ってございます。

最後に、生徒会長の長瀬隆史君は、東京実業高等学校が、いつまでも心の故郷(ふるさと)であって欲しいと喜びのごことばを述べました。

この日夕方5時から、会場を品川・新高輪プリンスホテルに移しまして、創立70周年祝賀会が催されました。この折には、同窓生の方々多数ご出席賜わり、学校側といたしましても面目をほどこしたことでございましたが、教育界はもとより、各界各分野から750名以上のお客様をお迎えして、誠に盛大にしてエポックメイキングで華やかな国際色豊かな祝賀会となりました。中でも、同窓会の皆様にご好評だったのは、本校プラスバンド部



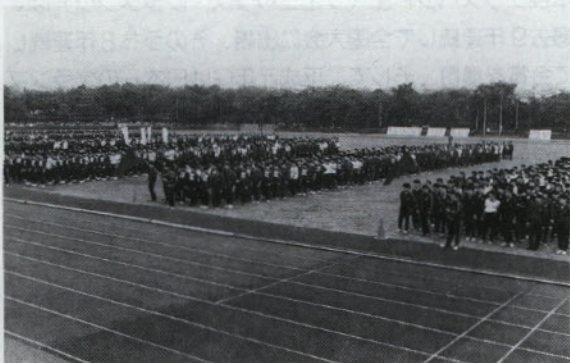
▲ 喜びあふれる列席者の顔

の演奏でした。校旗のプレゼンテーション、マック・ザ・ナイフの演奏などを、皆さん乾盃の杯を手にしたまま熱心にご鑑賞していただき、心からの拍手をいただき、華やかな祝宴をいやが上にも盛りあげておりました。

### 体育祭勇壮に——大井陸上競技場

ことしの体育祭は10月3日、例年通り大井陸上競技場で開かれました。とくに今年は生徒会が企画・運営に積極的に参加し、内容も従来と変えたり、スローガンは、「JUST DO IT」(全力をつくそう)とシャレた表現をして、体育祭の盛りあげに一役も二役もかかっていました。それもあってか、天候にも恵まれすばらしい体育祭になりました。

ここですこし余談めきますが、昨年、一昨年とこの同窓会報で私は、機械科がどうしても上位になれないので、先輩の皆さんに応援にきていただいて、楳(げき)をとばしていただきたいと書いたのですが、それがきいたのでしょうか、今年は白隊(機械科前半)ガアレヨアレヨというまに遂に総合1位となり、みごと今年は正面スタンドの席が決定し、こんどは胸を張って大いに応援し、この席は絶対にほかのヤツらに渡さないぞと、白隊機械科教員、生徒とも張り切っておりますのでひとこと。応援優勝は緑隊(商業科前半)で、渡辺和彦同窓会長から優勝カップをいただきました。



▲ 大応援団旗を先頭に全員整列

### 東実文化祭にぎにぎしく

11月2～3日と二日間にわたって、本校のメイン行事である東実文化祭が開かれました。昨年度は日曜と祭日が重なった為に、多くのお客様でにぎわい、人出は5,000名にもなったのですが、今年度は2日がウィークデーということで淋しくなるのではと心配しました。しかし、ふたをあけてみますと、同窓生をはじめ父母、他校生など実に4,000名という大勢のお客様が来校され、びっく

りするやら、感謝申しあげるやら、やはり70年の伝統はしっかり息づいていると安堵の胸をなでおろしたものでした。

テーマは「熱血」でしたが、東実生の熱い息吹きが伝わりましたでしょうか。このテーマが真に生かされていたかどうか、内容がどうだったかについては、教員の側にもまだまだ反省の余地は大いにあると存じますが、無事終了し、生徒諸君と共に校長先生、文化祭実行委員の先生方と全員でジューズで乾盃したときには、私の胸に熱いものがこみあげたことでした。



▲ 特設会場での楽しげな顔

### 交換留学生勇躍アメリカへ

今年度東実を代表して7名の生徒と引率の知念義裕先生が、アメリカ・コロラド州ボルダー市にある本校の姉妹校五校を訪れました。こちらから訪問するのは13回目ですが、知念先生は2回目に生徒代表として渡米、今回は引率者として再度の渡米ということで、大変に意義深い訪問であったと言っておられます。

「東実70年史」第2部にもくわしく書いてございますが、日米両国の若者たちに多大な影響を与えてきたこのエクスチェンジプログラムが、更に発展することを心から願っております。参加生徒氏名、長瀬隆史(O3B・藤の木中)、内海正秀(M3A・保土ヶ谷中)、菊池慎一



▲ ダンスパーティーでの記念撮影

(E3B・葛西第二中)、松原徹(C2C・矢口中)、田中順一郎(C2A・もえぎの中)、名取正人(C2C・今戸中)、鈴木直也(O2B・中野第十中)

### 生徒会新スタッフに期待する

新年度の生徒会役員立候補者による立合演説会が、文化祭がおわって間もない11月18日(水)、3年2年1年の順に学年別に体育館で行われました。

従来とも、本校の生徒会活動は他校にくらべ、活発だと評判をいただいておりますが、ことしずっとこの立合演説会を見聞しております、今年の生徒会もこれで大丈夫と自分自身で太鼓判を押したものでした。それ程充実した内容だったと思います。もっとも、上級生ほどうるさい場面も多数ありました。

その結果は、選挙はミズモノといわれる通り、私の予想はみごとにはずれ、1年生の会長が誕生しました。しかし、あとでじっくり反省してみますに、ことしの1年生は実に演説内容も態度もすばらしいということに気づきました。その意味では、生徒諸君の選択は決して間違っていないかと思えます。会長、副会長に選ばれた1年生コンビが、雑音にわずらわされることなく、堂々と胸を張って、先輩の築かれた70年の歴史を汚すことなく、新たな感覚でニュー東実の伝統づくりにか力を貸してほしいと願わずにはいられません。新生徒会三役は  
会長・林大輔(C1D)、副会長・浜里一之(C2A)、  
同・玉坂弘毅(O1C)、書記・中村嘉孝(C2A)、  
会計・大出亮(O1C)。

### クラブ活動報告

**レスリング部** 全国高校総合体育大会(インターハイ)に佐藤修(大道中)、久保田晋司(中原中)、金田武士(大森八中)の3名が出場、また国民体育大会にも久保田晋司、金田武士の2名が出場したが、全国の壁は厚かった。東京都新人戦では団体優勝、個人戦でも4名が優勝するなど、東京都では大健闘している。

**野球部** 夏の大会予選では、立正高校、篠崎高校、昭和鉄道高校、東海大高輪台高校を連覇し、東東京都大会ベスト4をめざして、安田学園と対戦。この折にはOBをはじめ本当に大勢の応援をいただきながら惜敗、結局ベスト8。秋の大会は3回戦進出。現在部員38名。

**柔道部** 東京都学年別大会団体戦1年生の部で、みごと3位に入賞、第1支部大会では無段者の部で肥後 誠(高津中)が優勝、団体の部でも優勝した。有段者では3位に入賞、大田区道場対抗団体戦有段の部で優勝。

**テニス部** 東京都新進大会個人戦で、吉田順、太田組がベスト32位、同じく団体戦でベスト16位となり、個人団体とも東京都選抜インドア大会に出場権獲得は快挙、城南地区団体戦で第3位、大田区大会優勝、第3位入賞

**サッカー部** 地区大会新人戦で芝商業、正則高校を破り3回戦小山台高校と対戦し、0-0のままPK戦に突入、結局、3-4で惜敗。また新規まき直しで来年へ。

**陸上部** 陸上部はこのところ部員もふえ着実に成果をあげている、第1支部新人大会で総合2位、東京都大会10種目出場、うち5種目で決勝進出。来年が楽しみ。

**卓球部** 東京都新人大会で、シングルス4回戦2名進出、大田区大会で個人戦3位入賞した。

**バスケット部** 関東大会予選で5回戦進出、これは東京都ベスト32位にあたる、第7支部大会でも第3位入賞

**バレーボール部** インターハイ予選で順調に3回戦まで進出、ところが相手は横綱格の堀越高校、結局、貫禄負け。

**剣道部** 夏の山中湖合宿ではOBも10数人参加して指導していただいたが、目立った活躍はなかった。

**インターアクトクラブ** 社会奉仕を旗じるしに活躍する異色のクラブで、こんども百時間(土・日・祝日など)献血奉仕活動をしたということで4人の部員が大田赤十字血液センターから表彰をうけた。

### ブラスバンド全国大会で金賞に輝く

本校ブラスバンド部(フェニックス・レジメンツ)は、過去9年連続して全国大会に出場、そのうち8年連続して金賞を獲得、そして、平成元年には日本一のグランプリに輝いている。今年も東京都大会、関東大会をいずれも好調に勝ち抜き、いよいよ1月16日武道館での全国大会にのぞんだ。本校創立70周年に花をそえるべく、去年暮れから年初にかけて猛練習を積み重ね、曲目、振付も一新、満を持して本大会にのぞんだのであった。

武道館での演奏は東実独特の男っぽい演奏で観衆を魅了し、ついに連続して9回の金賞に輝いたのであった。同部の第15回定期演奏会は2月9日(火)午後7時より大田区体育館で凱旋演奏会として開かれOBの方も多数ご来場いただきました。



## 同窓会長を辞任して

同窓会顧問 17期卒 村松 濱代



初代同窓会長、山田仙太郎先生の時代に現同窓会長の渡辺和彦氏が副会長の職にあり、何時頃であったか記憶がありませんが、私に副会長をしると任命され、渡辺さんと二人で副会長をした時代がありました。

昭和47年10月頃に上野幸一校長と鷹野先生が突然私の会社にお越しになり、11月の同窓会総会で山田同窓会長が辞任されるので、村松君後任の同窓会長を引き受けてくれと申されました。

当時は同窓会の組織があるというだけで事業は何もしておらず、年に1回学校の文化祭の当日に同窓会総会を開催するくらいのものでした。その同窓会の席上で私が副会長を任命されてから、同窓会があるのに同窓会の名簿が無くては同窓会の基本が無いようなもので、これでは発展性がないと提言しましたところ、皆さんが名簿作成に賛成してくれましたが結局言い出し屁で、同窓会名簿作成の委員長を押しつけられてしまいました。

そのようなことで第1号の同窓会名簿を作成することになったのですが、過去の資料が全く無く、各期で同期会を実施している期だけが頼りでありましたが、幸いに卒業生の名簿が戦火を免れて残っていたので、それを頼りにして1万数千通の名簿作成の案内状と返信葉書を同封して卒業生に発送しました。しかし最初の発送で返信葉書が戻ってきたのは僅か470通程で、当初張り切って作業をしたのですが青菜に塩で委員の皆さんと共にガックリし、投げ出したくなりました。しかし気を持ち直して苦労に苦労を重ねてやっと第1号の同窓会名簿が製本された時の感激は講いようのない喜びでした。

この名簿の作成に就ては22期の井上実氏と鷹野先生のご努力によるもので、今でも厚く感謝しております。またその費用も当時の同窓会の資金としては莫大なものであり、同窓会の事業としては最初のものでありました。

上野幸一校長に、私は同窓会長として適任ではなく、数多くの立派な卒業生が社会で活躍しておられるので、それらの人々の中から適任者を捜して欲しいとお断りしましたが校長は、君の会社は学校に最も近い何かと連絡も取り易いし、同窓会長として何も特別なことをしなくてもよいから引受けてくれ、と懇請され、否応なしに押しつけられてしまいました。そのような約束でしたので当初は同窓会長の肩書だけで、学校に必要な時だけ顔

を出し同窓会としての事業を捜し求めるようなことはいたしませんでした。

それにその頃は校内で鷹野先生が同窓会の事務局の仕事をしており、先生は私が在学中の恩師でもあった関係上、同窓会についての意見や文句も言い難く、時には不満もありました。

戦前、戦後の物資の不足であった時代の教師であった先生は、極度に紙を大切に同窓会の議事や連絡事項等については殆んど広告紙の裏面を使い、葉書なども面に書ききれなくなると宛名を書く所にまで書き入れ、それも私用で書くのならともかく、同窓会長村松濱代の差出して投函されるのには全く閉口致しました。

同窓会として色々始めたのは、鷹野先生が同窓会の事務局をお辞めになり米田先生が事務局に就任されてからでした。上野幸一校長も多少感じられたのではないかと想像しましたが、私も鷹野先生がお年であり老後の仕事としては適当なものだと思っておりましたが、いざお辞めになられるとなるとお気の毒だなと感傷にふけりましたが、私としては真実それから同窓会の事業に取り組まれました。

常任幹事の方々もご多忙の中を幹事会への出席率も良くなり頻りに幹事会を開催するようになり、従って皆様からの同窓会事業に対する企画や意見も数多く出るようになり、幹事相互の親睦も次第に深まり、組織形態も整って参りました。また幹事の皆様も自から進んで諸行事に取り組んで下さるようになりました。

同窓会の発展の為には私が同窓会長を永年勤めるのは好ましくないと考え、校長に辞任の意向をお話し致しましたところ、これから学校の60周年の記念行事もあり、校舎改築の大きな事業の予定も控えているので今辞任されては困ると講われ不本意ながら思いとどまりました。

その後60周年記念行事も無事終了しましたので辞任の機会を狙っておりましたところ、昭和59年校長が食道癌で入院し大手術をなさいました。当時学校の関係者は皆さん大変ご心配なさいましたが無事退院され暫く静養をされておりその間井上副校長が校長代行を勤めておりましたので辞任を口にすることが出来ませんでした。

看病疲れからか奥様が昭和63年10月31日に突然心不全で亡くなられ、それから間もなく奥様の後を追うように

昭和63年11月23日に校長も帰らぬ人となってしまいました。

上野校長が亡くなられ、井上副校長が校長に就任され、新学期に入ったころ井上校長に今度の同窓会総会で辞任させて欲しいと申し上げましたところ、自分も校長に就任したばかりであり、学校を応援する同窓会会長が変わるのは私としては大変困るから今暫く勤めていて欲しいと頭を下げられ再び思い止まざるを得なくなりました。

その時の交換条件ではありませんが、同窓会の運用資金も少く思うような活動が出来ないので、生徒が卒業する時、同窓会への入会金を1万円に値上げして欲しいとお願いしました（従来は3千円）井上校長は承諾して下さいましたが、一度にそれだけ値上げするのは困難だから初年度5千円、次に7千円、3年度に1万円にしようと申されました。また値上げをする代償として同窓会報を年1回出版することをお約束しました。

井上校長も同窓会の行事には大変ご協力下さいまして、公用の無い時は常任理事会に必ずご出席下されまた同窓会の懇親旅行会、新年会、同期会その他必ずお顔を見せて下さいました。

井上校長は昭和34年に東実の専任教諭に就任され、上野熊蔵五代校長、上野幸一六代校長と35年間に亘り東実の発展に尽力され、上野幸一校長時代には15年間副校長として校務運営を仕切り上野幸一校長亡き後、校長として3年半勤められましたが、平成元年4月東邦医大で検査をしたところ肺癌を発見され、同年5月23日東邦医大の肺腫瘍部を摘出し、その後回復に向かわれましたが、ご自身の体力の限界を知ったのが、平成4年3月の終業式に全校生徒を前に訓示をしその中で退任のご挨拶をされ、次期校長に上野毅副校長が決定された旨を述べられました。ご自身の寿命を悟られていたのかのように平成4年5月11日に心不全のために享年70歳でご世界されました。

私も長い間学校の慶事、弔事のために辞任する機会を失なっておりましたが既に20年の間同窓会長として在籍しており、これからの同窓会の活性化の為に上野毅校長をお願いして、後任にはベテランの渡辺和彦副会長に会長をお願いすると共に、役員幹事で私と共にご苦労下さった副会長の佐々木努さん始め多くの方々に、若手の役員幹事さんを入れ替って頂くことにしました。

これからの同窓会は若手の方々が若い上野毅校長を中心として、学校、親師会、同窓会が一丸となって東実の確固たる地盤を尚一層固めるために奮闘して頂きたいと心から期待すると共にお願いする次第です。

永い間同窓会長であった私に心からのご協力を下さいました役員、幹事の方々に厚くお礼申し上げます。

(株式会社三松会長)

## 「笑顔に励まされて」

親師会会長 渡辺 金也



創立70周年親師会を代表いたしまして心よりお祝い申し上げます。縁あって親師会の役員となり、伝統ある会の深淵をも分らず五里霧中のうちに会長となったというのが偽らざる気持です。無為無策の会長のもとで伝統のある役員の方々の笑顔での励してございました。上野理事長の何時も絶やさぬ微笑、上野毅校長のリズムある笑声、村松前同窓会長の恵比寿顔、川名前会長の控え目な笑顔、三上顧問の豪傑笑、志賀秀春先生の歯を見せない口を尖らせた笑、事務の方々の笑顔での対応、その他多数の笑顔が私に責任感と誠実を尽くす事の大切さを教えて下さいました。

以上のような明るい励ましの笑顔の中に今でも私の心を探らえて離さぬ笑顔……二度と見る事の出来ない優しい笑顔……。私が井上校長に御目に掛かった時には既に二度と戻る事の出来ない病の道をお歩きになっておりました。瘦身のおからだで何時も少し下を見ながら微かなえみをうかべ自分の過去の人生と思い出を残すかの様に一歩一歩踏みしめ「東実」を静かにお歩きになっておりました。逢う度に寝れてゆく蒼白のお顔の中にあっても温い静かな「ほほえみ」は私に勇気と気力を与えて下さいました。そしていつも私に頂ける言葉は「よろしく頼みますよ、渡辺さん」でございました。廻りを温く包む笑み「同窓会報」の最後の言葉「さらば東実」。これらは特攻隊、不治の病と幾度も死線を越えてこられた「悟」の境地が成せるものではないでしょうか。今思い出すとその様に思えてならないのです。親師会長としていつも「笑み」を忘れず上野校長のもとに東実の素晴らしい伝統を引き継ぎ築き上げる事をお約束し、東京実業高校と同窓会の今後の発展を心から祈念いたし私のごあいさつとします。





## 祝東実70周年記念に思う



桜美会 代表 二瓶 長蔵

東実70周年記念、誠にお芽出度うご座居ます。

衷心よりお祝申し上げます。

私、親師会現役の時に、60周年記念を手伝わせて載せ、感動致したことが、ついこの間の様な気がして居りましたが、早10年。「歲月滔滔流れて止まず」と言われますが、月日の移り変りは、あつと、言う間です。

私祝賀会当日、雪谷法人会より表彰状が載けるとのことで、2時より出席をして居りまして、式典が終り、時間の都合上、懇親パーティーは失礼しようと思ひ帰りかけたところ、役員の方よりどうしてパーティーに出ないで帰るのかと呼び止められ。実は、関係ある学校の70周年記念に出席の為失礼致しますと申したところ、いきなり東実だろうとの言葉に、びっくりしました。卒業生とは知らずに居りましたので。途中迄帰りかけた処で、役員の方に同じ様に問いかげられました。申訳有ませんが或学校の70周年記念祝賀会に出席の為、と言いかけたところで、ああ東実ですねとのこと。又々驚きました。どうしてご存じかと尋ねましたら、僕は東実の卒業生で同窓会員なんだけど、役職上会が終わらないと東実に行けないので、一寸遅れるがお願いねとのこと。偶然にも同じ処にて2人の同窓生に逢うとは、二度三度と驚きました。私も親師会、桜美会を通じて、立派にご活躍されて居る方々は存じ上げて居りましたが、各界各層にてリーダー的第一線にて活躍されて居る姿を、身近に目の辺りに拝見致し東実同窓生のパイタリティーと尊敬の念を深く致す1日でした。先輩方に逢ったお陰で心晴々とした気持ちで祝賀会に出席させて頂き感謝致して居ります。70周年記念と一口に言葉では言いますが、あの様に立派な祝賀会が行なわれたことには、同窓生皆様方々の大変な歴史の積重ねが有ればこそと思われます。断片的で有りますが、何うところ、創立当時や、戦前戦中は持論戦後

にかけてのお話か。トタン屋根のバラック校舎又は間借りとかも耳に致して居ります。今日迄卒業同窓生が、2万数千名と違って居りますが、これも一重に先人先輩方の並々ならぬご苦労とご努力にて学校を守り甬くみ育ててこられた賜ものと思ひその道程を考へますと只々感激で一杯です。

私聊かしい話ですが、前上野幸一校長先生に大変失礼なことを申したことが有ります。立派な学校とは、立派な人間教育をし社会生活の中で奉仕奉恩が出来る人間を造るのが本筋で有って、ただクラブ活動などで人気を得る様では眞の学校教育では無いなどと生意気なことを言葉にしたことがござ居ます。現在同窓生方々の姿を拝見致し居りまして、流石が東実、立派な人間教育が培かれて今日の70周年の歲月を数えることが出来たことと心新に感じながら生意気なことを申したことを只々恥入る次第です。今後21世紀を向え東実同窓会が益々のご発展を心より祈念申し上げます。

最後に紙面をお借り致しましてお願いを申し上げます。

同窓会諸先輩のお陰に寄りまして。桜美会も今日を迎えて居りますことをお礼申し上げます。

9月に桜美会長吉原作治氏が勇退されまして、後を引受けさせて頂く様に成りました。今後は、同窓会諸先輩方のご指導を仰ぎながら良き伝統を守りより一層良き桜美会として発展に努めさせて頂きたいと思つて居ります。

東実高等学校と同窓会の為に何かお役に立たせて戴けます様、誠に微力でござ居ますが努力精進させて頂きます。今後宜敷くお願い申し上げます。



〔桜美会とは親師会のOB=卒業生の親の集り〕

東京実業高校の後援・親睦団体。現在人数は約110名位の自主任意団体です。

## ゆとりとふれあい

第17期卒 高木 稔



平成5年の新春を迎え、謹んで年頭のお慶びを申し上げます。今年が酉年です。無限の時間と空間を60で区切る思想は遠くヘブライ(いまのイスラエル)にはじまり、シルクロードを経て中国に渡り、更に日本に伝えられたものです。昔から十干十二支を組み合わせて60才を還暦とする習俗があります。酒を熟成させる酒壺を形どった象形文字が酉ですが、干支では「とり」になります。今年の干支は癸酉「みづのととり」の年で神の恵ぐみの多い年といわれるそうです。

3年前にバブルが破綻して、資産デフレが始まり、銀行証券会社などの不祥事が追い討ちをかけて、嘗て無い厳しい不況に陥りました。複合不況と言う流行語も生まれました。平成元成は「天平かにして地成る」とも「外平かにして内成る」の由来の通り景気の絶好調の中で改元したばかりです。平成5年の今年はこの不況に終止符をうって立直りの軌道修正の年でありたいものです。

数年前の好景気の頃には「豊かな人生」や「豊かな生活」を求とめることが生き甲斐とする声が高まつたのです。それに便利さも加わり多くの人々がそれなりの「豊かさ」を手に入れました。しかし便利で豊かな暮らしが定着しないうちにバブルの崩壊が始まり一挙に景気は低迷し、そこから国民の意識に変化が生じたのです。「ゆとりある生活」とか「楽しい暮らし」がそれです。モノやカネへの執着心から健康や余暇の過ごし方など、心や体の満足感を充実させることを優先して求とめるようになりました。明らかに人生の目的を物質的な豊かさから、精神的な喜び、ゆとりの充実へとシフトしました。人と人のふれあいや日常の心のゆとりなどに加えて当然乍ら自然環境を守るための運動も各方面で起りつつあります。どれも精神的に豊かでゆとりある個人生活をなりたいさせるためにどの様な術(すべ)があるのか真剣に模索しはじめました。そんな折りにややショッキングなニュースが報道されました。昨年暮れのことで、一時鎮静化していた「校内暴力」が此処数年再び増加傾向に転じたそうです。社会の暗い影を反映しているのでしょうか、高校では発生校数、件数とも調査開始以来、過去最高だと文部省の調べて明かになりました。特に生徒間暴力の増加が目立っているそうです。幸いにして我が母校にはこう

した事実はありません。学校当局や教職員の方々のご努力の賜と、深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。

社会が「ゆとり」「明るさ」「楽しさ」を求とめる時に中高生のこのような行動的な社会がいはり何処から生じているのでしょうか。ゆとりを求とめる術(すべ)を模索することとらはらに増加している校内暴力の抑止対策は急がねばなりません。そういえば近頃は、日常生活でマナーや常識など無視した自己本位の人、身勝手な人が増えたように感じられます。団塊世代を含め30代40代に多く目立ちます。そしてこの人々の子弟が現在の中高生にあたります。

司馬光の勸学歌の中に「子に教えざるは父の過ちなり、学の成らざるは子の罪なり」とあります。マナーや躰を含め子の教育の総てを学校に負わせる風潮は如何なものでありましようか。ことわざにも「親に似た蛙の子」と言はれますが子は親を見て育ちます。親が自己本位、身勝手では次第に世の中は荒廃しましよう。パパーマンズと身勝手を混同している人も居るようです。

さらに申しました「ゆとり」「ふれあい」など心の満足感を求める時は、快適な人生を過ごそうと希う時、自己を今一度見なおすことが必要でありましよう。政治への不信、社会の混乱、経済不況の中で次代をになう立派な青少年を育てるために自己の周辺に目をとどかせて見つめなおし、反省を加え行動することでより素晴らしい社会が構築されるなら酉は空に大きく翔ぶことでありましよう。(赤城ゴルフ倶楽部代表取締役社長)



## 思い出のつれづれ

### 第17期卒 六 部 峻



先日、東京実業高等学校の70周年記念式典に参列させて頂き、誠に感無量のものがりました。

私達17期生は、同校創立の2年後の大正13年に生まれ、将に同校の生成発展と共に我々もあるという思いです。

さて、私達17期生は昭和16年12月卒業しました。12月卒業とは当時第二次世界大戦の勃発という風雲急を告げていた為に3カ月繰上げて卒業ということになりました。我々の青春時代は戦争と共にあり、また戦後の混乱の中に終始したといっても過言ではありません。私は卒業後明大予科に入学しましたが勉強は数カ月で学徒動員となり、名古屋郊外の陸軍兵器廠で鉄砲作りをしその後昭和20年3月には陸軍歩兵部隊に入営し終戦まで6カ月間人権無視の初年兵生活を送りました。

復員後直ちに商学部に入りましたが、終戦直後のことで物資はなく特に本が無かったのには全く閉口しました。ある日神田の岩波書店の前に大勢の人が行列していたので何を売っているのが確めるひまもないまま列に並びやっと買えたのは、明治天皇御製集であり、がっかりしたことを覚えています。

昭和23年に明大を卒業しましたが当時はひどい就職難でやっと就職した会社に岩沢俊雄君（東実の同級生）が居り大いに意を強くしたものです。その会社にあられた明大の先輩の紹介で明大の同窓の会である「正明会」に入れていただきましたところその会に前校長の井上稔先生がおられました、当時未だ先生は東実とは関係なく大分経ってから、東実の教頭になられたことを伺いました私が同校卒業生ということでそれ以降大変可愛がっていただきました。本年2月の正明会の新年会で御奥様ご同伴で出席されましてお会したのが最後となり誠に残念でなりません。

東実新校舎落成後「一度見に来なさい」とお言葉をいただきお伺いしたところご自身で校内を隅々まで案内していただきました。その際先生は学校を大変愛しく思われ心からニコニコとされていた様子が今でも強く印象に残っています。

この度の式典の折ご来賓の方々が井上前校長のお人柄とご功績についてお話しされているのをお聴きし、一層先生の偉大さと尊敬の念を新にした次第です。

また、上野雅子理事長と上野毅校長のもとに全職員の方々が一丸となって素晴らしい式典が行われている様子を拝見して、井上前校長もさぞ満足され心から喜んでおられるものと思います。

今後とも井上前校長の意志を継がれまして益々同校が名実共に発展されますこと心から信じ祈念申し上げます。(税理士)

## 編集会議

### 第35期卒 川 名 重 士



本校の同窓会は同窓会報作成に携わる編集委員を設けています。

去る6月28日に開催した平成4年定時総会で渡辺会長が誕生した。同時に編集委員長に会長、他7名の編集委員が常任幹事の内から推薦を受けた。

10月19日に開催した常任幹事会で同窓会報編集の大黒柱である井上常任幹事から発言がありました。会長は忙しい、新たに編集委員長を出したいので編集委員の方に任せてほしいと要求があり、全員が賛同しました。会長は快く承諾しました。

11月17日の編集会議には村松顧問が出席された。顧問は平成4年の総会で在任期間20年にも及ぶ会長を勇退されました。村松顧問が会長在任中に手懸けた事業が一つに同窓会名簿第4版があります。11月11日発行の運びとなりました。井上編集委員が同窓会名簿第4版の編集から発行に至るまでの経過説明をされました。村松顧問は肩の荷が降りた様子でした。引き継ぎ過日の常任幹事会より受け継いだ「新編集委員長」の推選については各委員から多角的な意見が述べられた。現時点では何によりも会報発行が先決だという意見にまとまりました。

東実同窓会の標語に「ふれあいと語らいの同窓会」があるのをご存じですか。会報の1ページ左上にあります、同窓会にお寄せ下さった貴重な資料(原稿)を標語の「ふれあいと語らいの同窓会」の場で更に更に有意義に活用させていただきます。

編集委員一同、慣れない編集活動ですが互いに思いやりの心を忘れずに熱意をもって誠心誠意努力してまいります。(株式会社川名技工所代表取締役社長)

## 焼跡の雑草

第18期卒 佐々木 努



昭和20年8月15日、15年にわたる戦争は終わった。日本の主要都市は死屍焦土と化し、一面の焼野原であった。

私は、勤めていた軍需会社が閉鎖されて一片の辞令で解雇された。次第に秋らしくなってゆく頃、知人の紹介で、東京の南端、下丸子に引っ越した。三菱重工前の田園荘という2階建の焼け残りアパートだった。インフレは高騰し、とたんに生活に困った。どこかに勤めようかと思っただが、3年前に卒業した東京実業学校(旧制中学)の先生方の言葉を思い出した。

「荷車を引いてもいいから、自分の力を試してみることにだ」

「雑草のごとく、踏まれても、けられても生きてゆけ」  
同級生の吉原と相談し、蒲田駅前の闇市で露店をやることにした。食べ物を売る事で2人の意見が一致し、醍醐組の鑑札を買った。

民衆は飢えていて、食べ物なら何んでも売れた。下痢をしてでも口に入れたい時世だった。ふかし芋、しるこ、乾燥芋が面白いように売れた。特に芋まんじゅうは、サツマ芋をふかしてアンにし、うどん粉でつつんでふかす。それを古いトランクにつめた。駅前にゴザを敷いて鑑札を出すと、砂糖による蟻のように飢えた人々は寄ってきた。頃合を見て、トランクを開ける、モウモウとした湯気が上がり、甘ったるい匂いが漂う。

「さあいらっしゃい。2つで10円」

札を握った手が四方からのび、売り切れまでに30分とはかからなかった。

年末になり、同級の足立と野村が同居するようになった。しばらく手伝って貰い、4人で芋の買出し、芋ふかし、まんじゅう作り、販売とやった。数カ月どうやら生きのびた。

まもなく、足立はヤミ屋みたいなことを始め、野村は弱い体に鞭うって進駐軍の労務者になり、肉体労働をすることになった。帰りにもってくるささやかな砂糖やタバコの吸がらが、なぜかうまかった。しばらく経ち、吉原は専門学校へ戻り、私は2月にT印刷に入社し、夜間の専門学校での勉強を続けることにした。野村や足立も、戦争で中断してたが、大学の専門部(夜間)に籍は置いていた。

2月末のある土曜の夜、久しぶりに4人で顔を合わせ

た。餅や乾燥芋を焼き、お茶を飲んでしゃべることにした。コンロを部屋の中程に据え、炭をつぐ。電熱器はすぐヒューズをとばすので禁止されていたが、内緒で時々使い、足りない寒さは毛布や布団でカバーした。トイレは共用で、部屋から出て歩かねばならず面倒なので、窓からホースを出すことにした。

私と吉原は20歳、足立と野村は少し上といっても20代前半、批判精神は旺盛だ。父親をけなし、学校をけなし、政府をけなし。自分達だけが偉くなったような言いぶりになってくる。そんな中で、「雑草の如く生きろ」と言った校長だけは、みんなの尊敬の的だった。

話は、各人の将来について、ということになった。「会計事務所に勤めたい。出来れば資格もとりたい」と野村、「俺は商売で成功したい」と足立が続けた。吉原は何がマスコミ関係の仕事がしたいと言う。私はしばらく考えて居たが、静かにしゃべりだした。

「はっきりした目標はないんだ。しかし自分でつかみかけた思想を大事にしたい」と言った。元旦に一人で「共産党宣言」を読み、感銘を受け、会社に入るとすぐに労組の書記になった私は、おぼろげながら輪廊がわかりつつあった。私しの論旨はこうだ。

——経済的理由だけで昼間の学校へも通えず、才能を伸ばせないのは不公平。病弱というだけで社会のどけ者になるのはおかしい。戦争は軍閥と財閥がはじめたものだ。——

海軍一等兵曹だった足立が猛烈に反対してきた。弱肉強食はどうにもならない。つまり資本主義肯定である。戦争だって勝てば官軍だ。日本は負けたからすべてにケチがつく。野村が修正資本主義。吉原が協同主義。マルクス、アダム・スミス、ロバート・オーチン、河合栄治郎、河上肇、ニーチェ、カント、マキャベリー、フェビアン協会……。名前がポンポンととび出すが、どこまでわかっているのか一歩も引かない。空腹も寒さも忘れ、若さだけがムキ出しになり、机を叩いたり、口から泡をとばしたりした。遂に何が何やらわからなくなったり、話が学校の思い出になったり、異性の問題になったりした。軍隊の体験談になると、足立はイキイキとしゃべりだす。

何時間やったのだろうか。若い体もさすがに疲れてきた。一番年輩の野村が、「それぞれにもっと勉強しようよ。これからの日本はわれわれが背負うようになるんだ」と結論らしいものを引き出した。

◇ ◇ ◇

どこかで鶉が鳴いている。夜明けは間近なのだろうか。春近く、無限の可能性を秘めた焼跡の雑草は、今たくましく萌えあがろうとしていた。(株式会社佐々木印刷所代表取締役社長

## 日出づる東実への讃歌

第19期卒 吉浜 照治



「年々歳々花相似」「歳々年々人不同」（年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず）

この言葉は卒業を間近にした或る日、故鷹野宗太郎先生が私達に贈る言葉として残されたものであります。洛陽の都がどんなに素晴らしくとも花は年々同じだが人間は時とともに変わってゆくのだから、今の友人達もそれと同じだから東実に学んだ仲間を決して忘れてはいけないという意味でありました。

まさにその通りでありました、私達は昭和18年12月に卒業して今年で50年になります。卒業以来全員はいうに及ばず半分の人達が一堂に会することはありませんでした。まさに一期一会、会者定難であります。

私達は卒業が第19期でありますから同窓会の名称を十九実会（とくじつかい）といいます。この名付け親も鷹野先生であります。現在のところ健在90人、居所不明44人、死亡30人の164が同窓生の現況です。

十九実会は昭和30年頃から同窓会を毎年開催してまいりましたが最近10年程は休止しており、昨平成4年4月25日、10年ぶりに開催しました。東京・神奈川・埼玉・千葉や遠く仙台からも塩沢三郎氏がかけつけて来て37人の盛会となりました。学校側からも上野雅子理事長と全東実同窓会長村松浜代氏に御参加を頂きました。

同窓会を開催するに当たり全員に消息調査を行いました。この折にも鬼籍に入った者、闘病中の者、転居先が不明の者などがあり歳月の重さを深く感じたものであります。東実同窓会報を毎年拝読させて頂き、各期の方々の回想記や会合報告記を我が事のように感じるのには私ひとりではないと思います。

昨平成4年11月11日、品川の新高輪プリンスホテルに於て東実高校創立70周年記念パーティーに参加させて頂き改めて我が母校の益々の発展を心から祈りました。その散会のあと大ホールに向って私はただひとりで

「日出づる国と昔より、語りつたえし美し国」と校歌を大声で歌いました。仲間から笑われてしまいましたが、このことが私の母校への讃歌であります。しかし当日参加した白滝俊朗氏、吉原和富氏、下條秀男氏、山川文三氏、吉川修二氏、伊藤広里氏ら十九実会の皆さんの思いは私と同じであつたらうと考えております。

私は50才を過ぎる頃から昔なつかしさの思いが強くなり、ときどき東名高速道を御殿場で下り、旧鎌倉街道を富士山麓に向います。筆坂峠から見る山中湖と富士山は私を東実時代にタイムスリップさせてくれます。この峠はあの時代の誰もが経験した板妻兵舎での軍事訓練の折に行軍演習で必ず越す峠でありました。この峠に立って、三科六郎教官、宮野要教官、上野熊蔵校長をはじめ多くの同窓生の顔を天空に思い出しています。

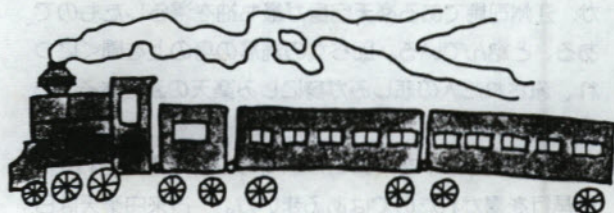
また川崎市ガハヶ岳山麓に市民休暇村を設置しましたので毎年のように宿泊利用し、その折に塩山市・金桜神社、昇仙峡を尋ね歩きます。これらは修業記念旅行で歩いた所であり、塩山の奥の沢で水晶を探したり、苦しい山地渡歩訓練でありましたが私にとっても忘れることのできない思い出であります。（会報3号で細江和四郎氏も書いています）。

このような昔語りは既に先輩各位も発表していますから書かないつもりでありましたが結局書いてしまいました。おゆるし下さい。

いつの日か同窓会の総会を兼ねて、これらの思い出のコースを巡って見たいと思っています。その願いを込めて、富士の裾野のスナップ写真を送ります。



前列中央・サーベルを持つ人が三科教官、その右へ奈良橋教官、鷹野先生です（渡辺正徳氏提供）  
（昭和17年秋）



# 琵琶行

第19期卒 塩沢三郎



家族旅行で青森県の古牧温泉に行った。古牧温泉は八戸の北三沢市にあり国道4号線からも離れ地理的に決してよい場所とは言えない。この地にこの古牧温泉の社長が温泉を掘当てた。湯量は相当豊富な温泉であった。

ここに日本一の岩風呂をもつホテルを建てた。祭魚洞公園という広大な公園も整備し第二、第三のホテルも建てた。このホテル間の渡り廊下の両側に社長が集めた筆墨の数々が展示されている。

この中に近衛文麿公の筆になる琵琶行があった。公が昭和19年秋軽井沢において書かれたものである。即ち終戦10カ月前のことである。この頃戦局は我に利あらず敗色は一段と濃くなってきた頃である。公は野に下り軽井沢に隠棲し国に行く未民族の将来を想い悶々の日々を過ごされていたと思われる。自らの心情を白楽天の琵琶行と重ね合わせてこれを書かれたのではないかと感じた。

その筆致の力強さ確かさと共に文麿公の純粋さが伝わってくるように思われた。

その後書道会の展覧会にこの琵琶行を書いて出した。先人の心情に触れたいとの想いで266字の楷書を一生懸命書いた。展示してもらったもののその御粗末さにあざれると共に先人の偉大さをつくづくと感じさせられた。

琵琶行というのは長恨歌と共に白楽天の二大長編叙事詩の一つでその大要はつぎのようなものである。

九江郡の司馬に左遷された白楽天が旅立つ客を波止場に見送った時、どこかの舟から琵琶をひく音が聞こえてきた。やっと訪ねてその人に数曲をひいてもらい別れの宴をはることが出来た。しかしその琵琶の音は田舎には似あわぬ垢抜けた都の調子があった。その琵琶の音色を漢字で表現したのが琵琶行の第一段266字である。

この人の身の上話を聞けばもと都長安の歌姫で第一級の琵琶弾きとしてもはやされて華やかに年月を過ごしていたが、時たつうちに容貌も衰え今は商人の妻になっているという。

この身の上話を聞いて、座中誰が最も多く涙を流したか、江州司馬である楽天自身が最も袖を濡らしたものである、と結んでいる。即ち女の淪落の身の上を聞くにつれ、流された人の悲しみが身にしみ楽天の涙をさそったのである。

この楽天の心中を文麿公が自身の立場に重ね合わせて琵琶行を書かれたのではあるまいか。古来白楽天は日本文学に計り知れぬ影響を与えている。

白楽天(772~846)の白氏文集は揺籃期の日本文学の拠り所であった。白楽天は中国において李白、杜甫に次ぐ大詩人されている。その上楽天が生きた時代の安祿山の反乱を契機として貴族の力が弱まった。彼は下級官吏の出身であったが才能をのばし自由な発言の出来る時代であった。詩人としては高い地位につきしかも長寿を全うし晩年は閑適の生活を楽しんだ。その平易な文体と人生の詩が日本人の気質に合ったのであろうと言われている。

学問の神様と崇拝されている菅原道真公(845~903)は楽天と一世代以上の開きがある。道真公の「東風吹けば匂いおこせよ梅の花、主なしとて春をわすれそ」の和歌は楽天の「花林好住莫憔悴 春至但知依旧春 楼上明年太守 不妨還是愛花人」に影響を与えられたといわれている。更に紫式部(975~1031)も源氏物語に楽天の長恨歌の影響を強く受けている。白楽天は日本人によって愛誦されその魂をゆさぶり続けてきたのである。最も日本人に影響を与えた中国の詩人といえよう。



## 平成5年度 生徒募集要項 (抜粋)

- 募集人員：機械科 180名 電気科 90名  
商業科 180名 普通科 100名
- 願書受付：平成5年1月25(月)~2月5日(金)  
午前9時~午後3時(日・祭日を除く)
- 受験料：¥20,000-
- 入学試験：平成5年2月18日(木)  
午前=学科(国・数・英) 午後=面接
- 合格発表：2月20日(土) 郵送(合・否共)
- 入学手続：2月22日(月)~2月25日(木)
- 入学費用：¥320,900-(入学金・施設設備費・他)
- 毎月要する費用：授業料 ¥24,000-(全科共通)  
実習費(機械科・電気科) ¥2,000-  
実習費(商業科) ¥500-  
普通科は実習費はありませんが、夏・冬  
休み等の補習費が若干かかります。

以上

尚、昨年度(平成4年)の募集状況をお知らせします。

科目	募集人員	応募人員	入学人員
機械科	180名	612名	221名
電気科	90名	330名	108名
商業科	180名	778名	290名
普通科	100名	758名	139名
	550名	2,478名	758名

単純平均倍率は4.51倍

## 懇親旅行記

第22期卒 遠藤 孝一



例年の同窓会有志の懇親旅行が夏休み後間もない、平成4年9月5日～6日にかけて行われました。総勢28名今回の会場は常任幹事の森さんのご尽力により、箱根湯本の湯本ホテルに設定されました、森さんとホテルの経営者が大学時代の親友であるとのこと。

当日は川崎駅に集合した人達も、他の駅からの人も皆最後尾の車両に乗車、箱根湯本駅からは迎えのバスでホテルへ向かう。

ホテルの大風呂には熱い浴槽、ぬるい浴槽とありサウナ、野天風呂と揃い風呂好きの人に喜ばれそう。

やがて、定刻どうり幹事役の本田副会長の司会に依って開宴、渡辺新会長は就任後初の懇親会でのご挨拶、会の益々の発展を期待し、懇親の実を一層深める様希望され、つづいて、学校創立70周年記念でお忙しい上野校長は学校の近況の御説明を含めたご挨拶、そして村松前会長は御在任中の会員諸氏の協力に感謝を含めたご挨拶と続き、森さんの乾杯の音頭で宴は始まる。会場に入る時籤を引いて席が決まり運が良ければ美人の隣となり羨望的、しかしながら皆同窓のよしみ先輩後輩互いに年齢や立場の別などなく、すぐ打ちとけ杯を酌み交わし、話は和やかに楽しく弾み宴は盛り上がるいっぽう、またたく間に時は過ぎ、終わりに全員で校歌を斉唱してお開きとなる。

その後は別室で二次会が開かれ、ここでも個性豊かで愉快に笑わせる人、サービス上手な人、等々、小田原駅名物あゆ脂等を味わい、話、酒、を楽しみつつ更に親睦は深まる、ホテル内のサロンのカラオケで唄や踊りを夜半迄楽しむ人達もいた。

さて、一夜明けた9日も好天に恵まれて絶好の行楽日和、希望者のみ参加で『箱根高原号バス』を利用して、箱根関所と資料館、芦の湖遊覧船、箱根湿生花園、等を巡る箱根路の周遊コース、スケールの大きさと変化に富んだ箱根は、訪れる都度新しい発見と感触がある所、関所の番所は昭和40年に再建された物とは言え往時を偲ばせるに充分、続いて芦の湖へ、初秋の湖上の風景は澄みわたり、バイキングを連想させる遊覧船上では、女性群を中心にマスト、大砲等をバックに写真撮影をして、賑やかに楽しげな様子はさながら何年か前の修学旅行を想

い出させる雰囲気。

湖尻桃源台での昼食後、両側にススキを眺めつつ走ればやがて湿生花園へ、仙石原にあるこの広大な植物園では四季折々、自然のままに咲く草花を鑑賞する事が出来る所、しんと静まった周田の山々を背景に、色とりどりのコスモス、秋の七草が可憐に咲き競い、時折響く笑等い声を耳に園内を巡れば、北の浜辺に咲くハマナス、見事に開いた蓮の花の大輪に感歎の声が湧き、三脚を使い写真を撮る人、キャンパスに向かう人、それらをめでつつ知らぬ間に園内を一周、こうして十分に高原の爽やかな空気を吸い自然に溶け込んだ後、再びバスへ、そして山を下りこのコースの終点小田原にて解散となった。

この楽しく且つ有益な懇親旅行を企画した本田さん森さん、そして幹事の皆さんご苦労さまでした、有り難うございます。(遠藤商店代表取締役社長)



## 東アジア体験記

第36期卒 天野 昇



東アジア経済人サミットと称する国際会議が毎年開催されている。第1回が1990年神奈川県川崎市、第2回が韓国京畿道水原市、第3回台湾台北県板橋区、1993年度は、マレーシアで行なわれることが決定している。私は第2回目、3回目に友人が日本側代表団の実行委員長に任命されたのに伴い、誘われて他の友人達と参加して来ました。

東アジア（日本、韓国、台湾、香港、マレーシア、シンガポール、中国）の経営者が一同に会しての国際会議の主目的は、友好とビジネスの機会を得る為に、行なわれている。韓国や台湾はビジネスと観光など何度か訪問しているが、国際会議となると初めての体験なので緊張の連続であった。

1991年度の韓国に於ける会議に於いては、日本は東アジアの経済の長男として、次男、三男の面倒をもっと見るべきであると強調されまた戦前の植民地、戦後の経済に於ける無秩序振り指と指適されたが、私達の年代の中小企業経営者にとっては、日本国政府や大企業の問題と知っていることが、アジアの経営者の人々にとっては身近かな問題としてとらえていることに対して、私の友人達も只驚くことばかりでした。

会議の間のフリータイムの時に、ビジネスでソウルを訪問時に通訳してくれた人と食事をした時に、会議の話をしたら、日本人に対する厳しい見方、考え方を随所に本音で指適していただいた。仲々理解しあうのは難しい事と考えさせられた。

夜、水原市内のカラオケパーへ案内されて友人達と行った時に、最初の内、現地の歌を唄っている時は、回りのボックスの人々と友好的に遇していたが、「釜山港へ帰れ」という唄を日本語で唄ったら、あるボックスからパカヤローと大きな声でドナられてしまい、危険を感じて早々にホテルに引き上げたものである。後に現地に詳しい人に聞いてみると、水原市内当りは、観光地ではなく、日本語がほとんど通じない所なので注意した方が良くと教えてもらい、しらずしらずの内に私達は尊大な態度をとっていた事を反省したものでした。

1992年度に開催された台湾でも会議の内容は前年度と同じようなものであったが、特にひどかったのは日本か

ら同行した通訳がほとんど通訳が出来ずにまたレシーバーの調子も良くなく、英語力のない私にはほとんど理解が出来なかった。

参加メンバー約500人中日本の経済人が100名参加しているにもかかわらず、会議の資料は中国語、英語しかなく、日本から参加したメンバーは大いにとまどったものです。

これらをとっても、私達に対する軽視した態度が伺われます。

ただ、全体的な接し方は有的であり、特に会議場へ向うパスを、パトカー、白パイで先導され、信号もノーストップという初めての体験をさせてもらった。

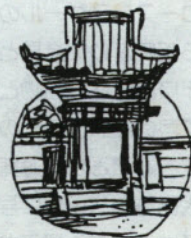
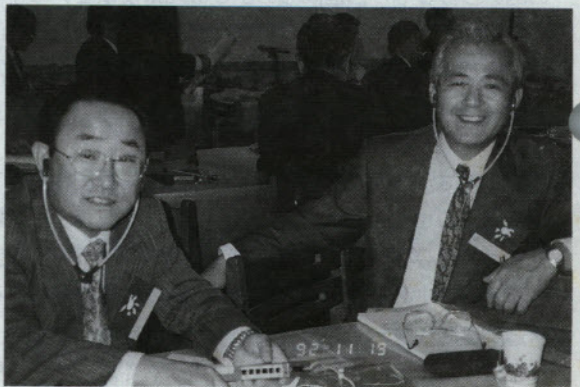
観光やお互いにプラスになるビジネスでは、わからなかった多くの事柄が、現地の人達と本音で語り合うと、外国の人達が色々な考えで日本人を見ているのだと、痛感し反省させられたものである。

札付を持ってのビジネス、観光というものに、私は再訪問する機会があったら、十分に注意をしなければと思うものである。

東アジアには私など比較にならない位に造詣の深い、先輩諸兄が沢山おられると思いますが、私が実体験した韓国、台湾の日本に対する見方でした。

先輩諸兄の参考になればと思います。

原稿など書いたことのない私に、この苦痛を与えてくれた、編集委員の各位に対して、大いにウラムそして感謝を致します。(株式会社プロテック代表取締役社長)





卒業生出会シリーズ④

「東中の先輩もやはり先輩かな？」

運命が決められる時

東実を卒業した直後の話は会報②で記した通りであるが、今回はその続編となってしまう。暗転……

彼は雨の日も風の日も、助産婦をスクーターの後席に乗せ自宅廻りをしていた。

時は昭和25年日本全国で子供の出生が増大し、厚生省の命により大企業に対し「バスコントロール」の実施が行われていた。(厚生省人口問題研究会)

厚生課安全衛生係に配属された彼は、自費(25,000円)で中古の“ビジョン”を買入れ、工場従業員(昭和電工・川崎工場)3,000人の自宅訪問を喜んで会社勤務とし励み続けていた。

国の家族計画にそった性教育を26才の彼は、厚生省に1ヶ月通い助産婦と共に技能士の試験を取った。

子供のいない人または、ほしい人達に狹野式を説明48手の体位を手を取り足を取り教えたものだ。

特に現在のように自動販売機で Condom が買えるものでなく、ペッサリー等は各家庭訪問を重ね説得と理解によりOKが出ると助産婦を連れていき、奥方の子宮の寸法を取るまで外で待っていたものだ。(ペッサリーはまだ日本で生産してなく、米国から支給されていた)

或る時、雨の厳しい日に踏切の線路で車輪を取られ、スリップして助産婦を落してしまい、それからは二度と乗ってくれなくなり、これほど四輪車がほしいと思ったことはなかった。

そんなことを3年続けた春、いきなり本社監査室勤務を命ぜられ、各工場15所、子会社36社、社内監査を4年経て、中小企業の経営の有り方などを勉強したものだ。(だが現在何も役立っていないと反省している)

昭和30年三井石油に続き、昭和電工もポリケミカルに挑戦した。

後発企業のため、PR不足により販売が伸びず、やがて営業企画室宣伝担当に赴任し、年間3億の予算を動かす彼であった。

電通、博報堂と一流広告会社に依頼していたが、その効果も思わしく行かず二流の読売広告社に切り替え、順調に行っていた頃、広告社の担当より近く(浜松町)に印刷屋のいい社長がいるぞと紹介を受け、印刷物はすべてその社長(M社)にまかせてしまった彼であった。

とても腰が低く実行力のある社長で、全面信用してしまふ彼であったが、後でいろいろと後悔することが発生

するのであった。

皇后陛下ではないが、廻りの人に助けられ人に迷惑をかけずにきたつもりで彼であったが、苦しい経営はいまだに終ってはいなかった。

その社長(M社)も昨年10数億の負債をかかえ、倒産状況にあると聞き、人間は尊敬する人、尊敬される人になりたいと反省しつづける彼である。(この話しはこれ以上触れたくないので割愛する)……暗転

おわり

M社の社長……………東高 昭和19年卒  
彼……………第22期卒 井上 実



◆お正月の遊び◆

六郷に舞う“とんび”だこ

このとんびだこは江戸時代の末期、多摩川の河原で捕えたトンビを見て考案されたという。

大正時代に、ここ大田区の六郷名産品となり、昭和初期の最盛期には年間10数万枚作られ、海外に輸出されるほどだった。

この程20年ぶりに人気が出て、1月15日には多摩川の河原で、100人以上の参加を見て、夢の大空を駆けめぐるっていた。(井上・記)



▲とんびだこの大会。特製の大型とんびだこ

### 第46期同窓会賑やかに

第46期卒業生

飯塚方子



同窓会報“創刊号”をご紹介した46年卒G3Aのクラス会が、11月14日(土)に開かれた。当日は、担任の吉田先生もお元気に出席下さり、総勢19名が集まった。来年喜寿を迎えられる先生だが、喜寿前祝ということで大いに盛り上がった。3年ぶりのせい、話も尽きず、あきれ果てて眠ってしまった店主を横目に、閉会となったのは午後11時も過ぎていた。それでもまだ別れられず、一部はファストフードショップへと流れていった。

時の流れには逆いようもなく若干、昔日のみずみずしさはなくなりつつも、心はいつも若さで一杯の我G3Aは、住所不明者も少なく、次回のクラス会開催日には、今回以上の参加者を// とトキの声を上げたのだった。卒業して早や22年、2回目の成人式を迎えようとしている私達。家事や仕事で追われている日常を離れ、久々に愉快な一夜だった。青春の3年間の思い出を共有し合った仲間、何にも代えがたい宝だと、再認識した夜だった。

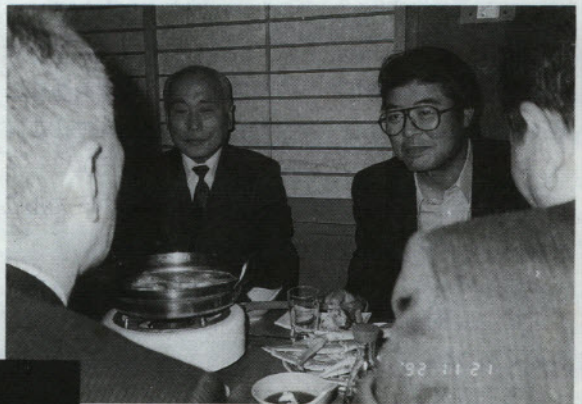


### 第22期同期会行う

サラリーマンが大半である私達であるが、今だに童顔を失うことなく、心身共に45年前と進歩していない。

平成4年11月17日の土曜日に上野校長、三科教官のご出席をいただき、横浜の小料理屋「和泉や」で25名の顔が揃った。前回1泊旅行をやってから早や5年たち、各々頭髪が薄く、白が増えていながらもかかわらず、昔の話して口角沫を飛ばし少年となりすましているヤツばかりであった。校長もあきれはたとと思われるが、また次回を約束して2次会に蒲田で飲み直したものである。

(井上・記)



## 良い学校、良い生徒会を

生徒会長 林 大 輔



先日生徒会役員選挙で会長に選ばれ、現在は希望と不安の毎日が続いていますが、会長になったからにはこれから先の行事や問題などに対して、積極的に取り組んでいきたいと決意を新たにしています。

現在生徒会では多くの活動を行っています。平成5年度の生徒会としても、「3年生を考える会」を初めとして「新入生歓迎会」、「生徒総会」、「リーダー研修会」、「体

育祭」そして「東実祭」などの行事を行う他、地域との交流を深めるために毎週土曜日の放課後通学路を清掃する「クリーンキャンペーン」なども大切な活動だと思っています。またそれらと平行して、他校の生徒会との交流も深め、生徒会活動の充実を図りたいとも思っています。「東実祭」などの行事は、今年度も大変な盛り上がりでしたが、今年はそれに負けない物にします。また平成5年度はアメリカからの交換留学生が来校するので、留学生と東実生がより交流出来るように計画を立てたいとも考えています。

今年度の生徒会は、生徒会役員20数名が一つとなり、「良い学校、良い生徒会」を作るため努力していきますので、先輩各位のご支援をお願い致します。



▲新会長及副会長のメンバー



▲新常任幹事のメンバー

スポーツのことなら!!

シロ カネ  
白銀スポーツ

ユニフォーム・スポーツ用具・用品・施設・工事一般  
カップ・トロフィー・賞品・その他スポーツの事なら受承ります。

〒143 東京都大田区中央8-29-7

TEL 03 (3754) 8679

FAX 03 (3754) 4845

第37期機械科卒 白銀 正明

## 東京実業高等学校同窓会会則

(平成四年六月二十八日 改正)

### 第一章 名称及び事務所

第一条 本会は東京実業高等学校同窓会と称し、本会の事務所を東京実業高等学校内に置く。

### 第二章 目的

第二条 本会は会員相互の交誼を厚くし母校の隆盛を図ることを目的とする。

### 第三章 事業

第三条 本会は会員名簿及び同窓会報を発行する他、第二条の目的を達成するため必要な事業を行う。

### 第四章 会員

第四条 本会は東京実業高等学校の卒業生、ならびに本校に関係のある卒業生及びこれに準ずる者を正会員とし、現教職員、元教職員を特別会員とする。

### 第五章 役員

第五条 本会に左の役員を置く。

名誉会長(学校長) 1名  
 会長 1名  
 副会長(1名は副校長) 6名  
 会計 2名  
 会計監査 2名  
 書記 1名  
 常任幹事 21名  
 幹事(各学年次各科各組) 2名

(代表幹事)上記幹事の内各年正副 各1名  
 顧問・相談役 各若干名

第六条 会長・副会長・常任幹事・会計・会計監査・顧問・相談役は常任幹事会に於て推薦する。

第七条 会長は本会を代表し、会務を執行する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

第八条 役員任期は二ケ年とする、但し再選を妨げない。

### 第六章 会議

第九条 常任幹事会は会長が召集し、会務の執行を協議する。その議決は出席者の過半数による。

第十条 総会は毎年1回会長が召集しなければならない。必要ある時は臨時に召集する。総会の議決は出席者の過半数による。

### 第七章 会費

第十一条 東京実業高等学校生徒は在学中に終身会費一

万円を同窓会に納入し、卒業と同時に本会員たる資格を得る。

第十二条 本会の経費は終身会費(一万円)・寄附金・その他の収入を以て充当する。

第十三条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

### 第八章 会則変更

第十四条 本会則は総会の議を経て変更する事が出来る。

## 東京実業高校 同窓会役員

名誉会長 上野 毅(学校)  
 会長 渡辺 和彦(27. 3)  
 副会長 松下 光夫(31. 3) 本田位公子(34. 3)  
 川名 重士(35. 3) 黒田 芳彦(39. 3)  
 日田 佳彦(42. 3)  
 会計 原田 忠彦(学校) 西岡佐江子(学校)  
 会計監査 野村 勝一(17.12) 飯塚 方子(学校)  
 書記(事務局) 米田 仁昌(学校)  
 常任幹事 小島 浩(学校) 森 哲太郎(18. 3)  
 三橋 金久(20. 3) 竹中 郁夫(20. 3)  
 井上 実(22. 3) 遠藤 孝一(22. 3)  
 吉村 和重(25. 3) 渡辺 正信(26. 3)  
 本間 計吾(29. 3) 箕輪 弘数(29. 3)  
 内藤 康邦(31. 3) 大野 安枝(33. 3)  
 高橋 洋太(35. 3) 木村 敬子(35. 3)  
 足立 喜一(36. 3) 天野 昇(36. 3)  
 岩永 通子(37. 3) 斉藤 君子(37. 3)  
 白銀 正明(37. 3) 戸田 三光(39. 3)  
 瀬戸 盛義(42. 3)

顧問 村松 濟代(16.12)  
 相談役 青木 茂夫(16. 3) 佐々木 努(17.12)  
 木村 恭久(35. 3) 後藤 光明(35.11)

校内幹事長 小島 浩(23.C)  
 校内幹事 大久保幸子(33.C) 浅賀 英雄(34.M)  
 荻野 知昭(42.M) 鈴木 政広(42.M)  
 井上 昭(42.C) 千田 一雄(43.M)  
 森 吉男(43.M) 馬場 文男(45.M)  
 知念 義裕(45.M) 原田 忠彦(46.C)  
 飯塚 方子(48.G) 田中 新一(53.C)  
 細井 守英(54.O) 村山 隆(54.M)

米田 仁昌(37.5) 編集委員長 渡辺 和彦(27. 3)  
 編集委員 青木 茂夫(16. 3) 井上 実(22. 3)  
 松下 光夫(31. 3) 本田位公子(34. 3)  
 高橋 洋太(35. 3) 川名 重士(35. 3)  
 米田 仁昌(学校)

## 平成3年度同窓会事業報告

- 平成3年
- 4月8日 平成3年度入学式参加(会長) 於：体育館
  - 15日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於：会議室
  - 5月8日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於：会議室
  - 13日 常任幹事会(平成3年度事業計画・名簿作成の件) 於：会議室
  - 22日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於：会議室
  - 6月7日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於：会議室
  - 12日 常任幹事会(定期総会打合せ・その他) 於：会議室
  - 22日 東京高校同窓会定期総会(会長出席) 於：東京高校
  - 23日 平成3年定期総会 於：大森東急イン
  - 7月19日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於：会議室
  - 8月26日 編集委員会(会報作成打合せ) 於：会議室
  - 9月2日 常任幹事会(懇親旅行最終打合せ・他) //
  - 9月7日~8日 第9回懇親旅行会(山木旅館) 於：熱海 1泊2日
  - 10月2日 体育祭(有志・代表参加) 於：大井競技場
  - 10月14日 「全国同窓会協議会」会長他3名参加 於：明治記念館
  - 11月1日~3日 文化祭(有志・代表参加) 於：本校
  - 22日 常任幹事会(新幹事との懇親会・その他打合せ) 於：会議室
  - 12月9日 常任幹事会(本年度卒業新幹事との昼食懇談会) 於：会議室
  - 20日 常任幹事会(新年会・その他打合せ) 於：会議室
- 平成4年
- 1月8日 新年顔合せ参加(代表) 於：会議室
  - 18日 編集委員会(会報作成打合せ) 於：会議室
  - 25日 同窓会有志新年会 (ブリーズベイ・ホテル) 於：桜木町
  - 3月3日 平成3年度卒業式参加(代表) 於：体育館 以上

### 平成3年度収支報告書 (東京実業高校同窓会)

#### ●収入の部

自平成3年4月1日 至平成4年3月31日 (単位：円)

科 目	平成3年度予算額	平成3年度決算額	備 考
前年度繰越金	786,731	786,731	
終身会費	7,200,000	6,384,000	本年度卒業生 696名・会員 12名
総会会費	300,000	525,000	懇親会費 75名
懇親旅行会費	1,000,000	800,000	参加者 32名
新年会会費	500,000	795,000	参加者 81名
名簿販売代金	0	0	業者等
広告収入	100,000	20,000	会報広告料
受取利息	300,000	313,564	銀行等預金利息
同窓会基金	0	2,500,000	同窓会基金より振替
名簿作成積立	0	4,000,000	名簿作成積立より振替
雑収入	0	200,060	総会・新年会等行事寄附金
合 計	10,186,731	16,324,355	

#### ●支出の部

科 目	平成3年度予算額	平成3年度決算額	備 考
事務消耗品費	100,000	53,460	宛名ラベル用紙、ゴム印、封筒等
会議費	200,000	145,895	幹事会・連絡会議等
通信費	500,000	269,284	連絡・案内状・会報等発送
印刷費	100,000	97,335	各種行事案内状等
慶弔費	300,000	242,038	卒業生へ丸筒等
支払手数料	10,000	252	振込み料等
総会費	600,000	712,173	総会・懇親会費等
懇親旅行費	1,200,000	874,768	1泊2日(熱海：山木旅館)
新年会費	800,000	880,730	桜木町：ブリーズベイ・ホテル
会報発行費	800,000	669,110	毎年1回発行(2月)
名簿発行費	0	5,437,627	5年に1回発行
助成費	1,000,000	589,298	体育祭・東実祭等行事補助
同窓会基金	1,000,000	1,000,000	
名簿作成積立	3,000,000	3,000,000	
剰余金	576,731	2,352,385	次年度へ繰越*
合 計	10,186,731	16,324,355	

#### \*剰余金内訳

普通預金(富士銀行)	¥1,938,338.-
別途積立金本年度利息	¥ 295,267.-
郵便貯金(駅前局)	¥ 118,780.-
計	¥2,352,385.-

#### 別途積立金

同窓会基金	¥2,500,000.-
名簿作成積立金	¥4,000,000.-
預金利息	¥ 973,582.-
計	¥7,473,582.-

私たちは当会の平成3年度収支報告書を監査しました。その結果適正妥当であることを認めます。

会計監査 野村勝一  
// 小島浩

平成4年5月30日

## 平成4年度同窓会事業計画

平成4年

- 4月11日 平成4年度入学式参加(会長) 於: 体育館  
18日 常任幹事会(平成4年度の事業計画・他) 於: 会議室  
21日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於: 会議室  
5月24日 編集委員会(名簿作成打合せ) 於: 会議室  
29日 常任幹事会(会則一部改正・役員幹事改選の件) 於: 会議室  
6月23日 常任幹事会(定期総会打合せ・その他) 於: 会議室  
28日 平成4年同窓会定期総会 於: 本校  
7月16日 編集委員会(名簿作成・会報作成打合せ) 於: 会議室  
23日 常任幹事会(懇親旅行打合せ) 於: 会議室  
8月7日 編集委員会(会報作成打合せ) 於: 会議室  
29日 常任幹事会(懇親旅行最終打合せ) 於: 会議室  
9月5日~6日 第10回懇親旅行会 (湯本ホテル・1泊2日) 於: 箱根  
9月28日 編集委員会(会報作成打合せ) 於: 法人室  
10月2日 体育祭(有志・代表参加) 於: 大井競技場  
22日 編集委員会(会報作成打合せ) 於: 会議室  
11月1日~3日 文化祭(有志・代表参加) 於: 本校  
11日 母校創立70周年記念式典 於: 新高輪プリンス・ホテル  
22日 編集委員会(会報作成打合せ) 於: 会議室  
12月9日 常任幹事会(本年度卒業新幹事との昼食懇談会) 於: 会議室  
20日 常任幹事会(新年会・その他打合せ) 於: 会議室  
平成5年  
1月8日 新年顔合せ参加(代表) 於: 会議室  
18日 編集委員会(会報作成打合せ) 於: 会議室  
23日 同窓会有志新年会(未定) 於: 未定  
「同窓会会報」第四号発行  
3月3日 平成4年度卒業式参加(会長) 於: 体育館  
以上

## 平成4年度収支予算書 (東京実業高校同窓会)

## ●収入の部

自平成4年4月1日 至平成5年3月31日 (単位:円)

科 目	平成3年度決算額	平成4年度予算額	備 考
前年度繰越金	786,731	2,352,385	
終 身 会 費	6,384,000	7,000,000	本年卒業生672名×10,000 他28
総 会 会 費	525,000	400,000	懇親会費 80名×5,000
懇親旅行会費	800,000	1,000,000	参加費 40名×25,000
新年会会費	795,000	800,000	参加費 80名×10,000
名簿販売代金	0	1,050,000	卒業生希望者・業者等
広 告 収 入	20,000	1,200,000	会報・名簿等
受 取 利 息	313,564	200,000	銀行等預貯金利息等
同 窓 会 基 金	2,500,000	0	同窓会基金より振替
名簿作成積立金	4,000,000	0	名簿作成積立金より振替
雑 収 入	200,060	100,000	総会・等各種事業寄附・他
合 計	16,324,355	14,102,385	

## ●支出の部

科 目	平成3年度決算額	平成4年度予算額	備 考
事務消耗品費	53,460	100,000	宛名ラベル用紙・封筒等
会 議 費	145,895	200,000	幹事会・編集委員会等
通 信 費	269,284	500,000	案内状・会報等発送料
印 刷 費	97,335	150,000	案内状
慶 弔 費	242,038	200,000	卒業生へ丸筒等
支払手数料	252	5,000	郵便局等振込み料
総 会 費	712,173	600,000	総会・懇親会費
懇親旅行費	874,768	800,000	例年9月上旬(1泊2日)
新年会会費	880,730	1,000,000	例年1月最終土曜日
会報発行費	669,110	800,000	毎年1回・会報等印刷費等
名簿発行費	5,437,627	8,500,000	5年に1回
助 成 費	589,298	1,000,000	体育祭・文化祭等学校行事補助
同 窓 会 基 金	1,000,000	0	
名簿作成積立金	3,000,000	0	
予 備 費	2,352,385	247,385	次年度へ繰越
合 計	16,324,355	14,102,385	

# 定期総会報告

東実同窓会では、6月28日(日)午後3時半より、本校小ホールにおいて定期総会を開催し、事業報告、予算案、会則改正、役員改選などの議案を慎重に審議しました。

村松濱代会長の挨拶に続いて、4月に学校長になられた八代目上野毅学校長の挨拶を頂き、村松会長を議長に選出して議事に入った。

## ①平成3年度事業報告

米田仁昌書記より、会務関係や事業について報告。承認。

## ②平成3年度決算報告

質疑応答のあと承認。

## ③平成3年度監査報告

小島浩監査より報告。承認。

## ④平成4年度事業予定の件

米田仁昌書記より事業予定(案)を説明。承認。

## ⑤平成4年度予算審議の件

絵面清一会計より予算(案)を説明、質疑応答のあと承認。

## ⑥規約改正

村松濱代会長より改正趣旨説明がなされ、質疑応答のあと承認。

### 《規約改正案》

第五条 常任幹事 21名(19名)

幹事(各卒業年次各科各組)2名

第六条 常任幹事会に於て(幹事会に於て)

第六章 会議(総会及び幹事会)

第十条 総会は毎年1回会長が招集しなければならない。必要ある時は臨時に召集する。(会長は毎年1回以上総会を招集しなければならない。)

## 第七章 会費(会計)

第十一条 (補足条文を削除)

第十二条 本会の経費は終身会費(一万円)・寄附金・その他の収入を以て充当する。(本会の経費は終身会費・寄附金・その他の収入を以て充当する。)

※改正条文のみ記載。( )内は旧規約。

## ⑦役員改選

選考の結果、村松濱代会長より発表。承認。

新役員は別紙参照。

以上、出席者の御理解、御協力によりとどごうりなく

議事を審議し本田位公子副会長の閉会の辞をもって総会を終了した。尚、退任された前役員の方々の御苦勞に感謝の拍手が贈られた。

総会終了後は、校内の食堂に用意した懇親会会場へと移動し、御来賓の上野塾理事長・上野雅子先生はじめ、東京高校同窓会会長・山本晴之介様や校内先生紹介等、賑やかに懇親を深めた。

(副会長・本田位公子記)

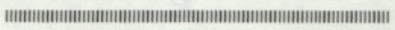


# 新幹事誕生

平成5年3月に卒業される14クラス 667名の同窓会幹事(28名)は下記の通り推薦されましたので紹介します。今後は同窓会の幹となつてご協力下さる事を期待します。

## 記

- 機械科 A 煤質 邦央 ・ 鈴木 広二  
B 菊地 栄一 ・ 吉田 紀行  
C 河内 智章 ・ 荻野 誉  
D 岩田 寛之 ・ 森村 誠二  
E 岩橋 岳志 ・ 工藤 淳
- 電気科 A 斉藤 正浩 ・ 高橋 庄司  
B 高梨 一雄 ・ 西丸 修平
- 商業科 A 久泉 弘 ・ 川崎 吉広  
B 栗山 剛 ・ 鈴木 秀之  
C 額賀 隆児 ・ 春山 賢志  
D 金田 宗一 ・ 塩川 剛  
E 相馬 浩二 ・ 斎藤 裕司
- 普通科 A 田尾 勝義 ・ 篠田 昌幸  
B 長瀬 隆央 ・ 羽鳥 晃永



## 東京実業同窓会会員総数

平成5年4月 予定 ( ) : 女子

会員総数		商業系	工業系	普通系	
25,276 (2,614)		12,304 (2,612)	12,336 ( ) 2)	636	
内	昼間部(同窓会) (大15~平5)68期	21,050 (2,382)	9,949 (2,382)	10,465	636
	夜間部(望窓会) (昭4~昭52)49回	3,586 ( ) 228)	2,223 ( ) 228)	1,363	
訳	専門学校(五葉会) (昭35~昭48)14回	640 ( ) 4)	132 ( ) 2)	508 ( ) 2)	

○平成4年3月卒業生数 667名 (商業系:249 工業系<機械>225+<電気>94=319 普通系:99)

## 事務局だより

卒業生の皆様、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。皆様のご援助と、ご協力によりこの会報も第四号の発行となりました。内容に関しても皆様に親しまれる様、編集委員一同種々考えておりますが、又皆様からのアイディアもお待ち致しておりますので宜しく。

この欄は、事務局よりのお知らせ、お願いと連絡等を記載致します。

## ●お知らせ

本年度の三大行事は、下記の予定です。

- (1)定期総会：日程 平成5年6月27日(日)午後3時  
会場 田校(小ホール又は食堂)  
総会後の懇談会費 ¥3,000
- (2)懇親旅行：日程 平成5年9月上旬の土~日  
泊2日  
行先 湯沢方面を考えています  
費用 ¥25,000位
- (3)新年会：日程 平成6年1月最終土曜ですが本年は22日(土)午後6時  
会場 未定  
会費 未定

上記の行事には同窓会員は、誰でも参加する事が出来ます。お友達を誘って、又グループ(クラス会として)で、ご参加下さい。詳細案内状は、後日発送します。但し全員にはとても発送出来ませんので、参加希望される方は、事前にお申込(ご連絡)下さい。

## ●お願いとご連絡

## (1)会員名簿について

平成4年11月(創立70周年祝賀会)に平成4年度版「同窓会会員名簿」を発行致しました。ご希望の方は下記の要領でお届けいたします。お申込み下さい。

記

## ①学校に取りに来られる方

事前に電話(03-3732-4481)を入れてから、ご来校下さい。平日：9:00AM~4:00PM 土曜：1:00PMまで  
代金：1冊¥2,500-(昭和63年以降の卒業生は無料)

## ②郵送希望される方

電話(上記①番号)か、ハガキで申込み下さい。  
代金は送料込みで¥3,000-(昭和63年以降の卒業生は¥1,000-)を同封又は下記宛送金して下さい。

送金先：全国郵便局 東京6-56316 東京実業高校  
同窓会 宛 卒業年と科を必ずご記入下さい

## ②終身会費の納入について

本会の活動をより活発にする為に終身会費の納入にご協力下さい。納入された方には同窓会報を送らせて頂きます。納入方法：全国郵便局 東京6-56316 東京実業高校同窓会 振込金額：¥10,000-

## (3)「同窓会報」投稿について

この会報は卒業生の機関紙です。卒業生は、どなたでも、何時でもご投稿下さい。適時に(次号に)掲載致します。自営されている方は、広告欄をご利用下さい。東実同窓生同志！何らかの効果は期待できると思います。

## (4)その他

- ①事務局より連絡があった場合は、期限内に必ず返事を下さる様お願いします。
- ②事務局にはFAXが入っております。ご利用下さい番号は 03-3732-4456
- ③各期・各クラス会等の催事がありましたら、事務局編集委員・会報係にもご連絡下さい。
- ④事務局では、同窓会全般に協力して下さる方を探しております。有志の方はご一報下さい。
- ⑤住所等の変更があった際は、(同窓生・クラス幹事)事務局にもご連絡下さい。

## 編集後記

同窓会報4号をお届けします。

今回は、5年に一度の名簿作成の年に当り編集委員のエネルギーの全てを注ぎ10月末に完成を見たが、完成後一部に不手際が見つかりこの場を借りてお詫び致します。

名簿作成中に、今は亡き井上稔校長が生前より“会報を発行する時期は、3年生が学校を巣立前(遅くとも2月始めまで)に行え”と言う言葉が頭の中をよぎって居てじれんまに立たされて居た。年の瀬も迫った11月下旬より、あわただしく会報作成の準備に取り掛り、紙面の内容、原稿整理等の作業にばかり発行のはこびとなった。

今後も、各分野からの内容のものを色々掲載したいと考えておりますので、一人でも多くの会員の投稿をお待ち致しております。

なお、当刊紙のためにご協力下さいました先生方はじめ、会員の皆様方本当に有難うございました。

末筆ではありますが、この紙面をおかりして、同窓会に対して色々の助言を頂き、昨年5月に亡くなられた井上稔前校長のご冥福を心よりお祈り致します。

編集委員 青木 茂夫(16.3) 井上 實(22.3)  
松下 光夫(31.3) 本田位公子(34.3)  
高橋 洋太(35.3) 川名 重士(35.3)  
米田 仁昌(学校)